

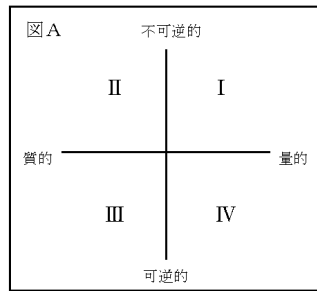
歴史と経済 期末試験

【1】～【50】はマーク解答欄の番号を、①～⑩は解答の選択肢の数字を表している。

設問 I

次の文章(1)～(10)の空欄【1】～【40】は、それぞれの文章の下の①～⑩のどれを採用すればもっともよく完成されるか(数値の場合は最も近いものはどれか)、その数字をマークしなさい。

(1)真木悠介の『時間の比較社会学』では、下図 A のⅣが【1】の時間意識であり、まさに【2】が述べたとおり《時間それ自ら有る種の【3】》とみなされた。これに対してⅡの【4】では、【5】が《限界をもたない永遠とくらべればとるにたりない》と強調したように、時間は【6】として意識された。



- ①円環 ②線分 ③直線 ④反復 ⑤ヘブライズム
⑥ヘレニズム ⑦アリストテレス ⑧アウグスティヌス
⑨トゥキュディデス ⑩ヘロドトス

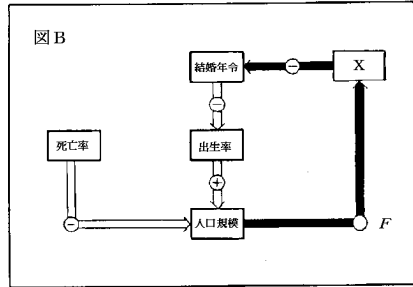
(2)世界の総人口は、1世紀から18世紀半ばまでの間にほぼ【7】倍になり、18世紀半ばから20世紀末までの間にほぼ【8】倍になったと推定されている。2017年中には74億人に達する見通しだが、今からおおよそ【9】年前には、その半分程度であった。

- ①2 ②3 ③5 ④8 ⑤10
⑥20 ⑦30 ⑧50 ⑨100 ⑩150

(3)統計上は【10】歳以上【11】歳未満を生産年齢人口、【10】歳未満の年少人口と【11】歳以上の老年人口をあわせて従属人口と呼ぶ。急速に少子高齢化が進む日本では、2015年の時点で、従属人口と生産年齢人口の比は【12】に近づき、年少人口と老年人口の比は【13】を越えている。

- ①15 ②18 ③20 ④60 ⑤65
 ⑥70 ⑦1対2 ⑧1対3 ⑨2対3 ⑩3対4

(4) 斎藤修の『プロト工業化の時代』では、【14】によって下図Bの **X** の【15】がもたらされると、黒矢印Fの符号が【16】となって人口増加が持続するというモデルが提示されている。

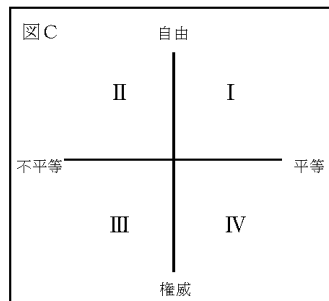


- ①外国貿易 ②実質賃金 ③就業機会 ④商業的農業
 ⑤小農経済 ⑥食糧供給 ⑦相続年齢 ⑧農村工業
 ⑨+ ⑩-

(5) 1975年には4人以上の世帯が日本の総世帯数の【17】近くを占めていたが、2015年には1人世帯が全世帯の【18】を上回り、2人世帯と合わせると全世帯の【19】を越えている。総人口の【20】以上が一人暮らしで、男性の生涯未婚率も【21】に近づいている。

- ①1/7 ②1/5 ③1/4 ④1/3 ⑤2/5 ⑥1/2 ⑦3/5
 ⑧2/3 ⑨3/4 ⑩4/5

(6) エマニュエル・トッドの『新ヨーロッパ大全』では、下図CのIIが「【22】家族」と呼ばれ、【23】に典型的とされた。また、IIIは「【24】家族」と呼ばれ、西欧では【25】で支配的だが、ヨーロッパ以外では【26】もこれに該当するとされた。



- ①共同体 ②絶対核 ③直系 ④平等主義核
⑤イギリス ⑥インド ⑦ドイツ ⑧中国
⑨日本 ⑩フランス

(7)福田アジオの『番と衆』は、景観的に東のムラは【27】、西のムラは【28】の印象を与えることを出発点として、組織の運営原則における東日本の【29】制と西日本の【30】制とを明らかにした。

- ①赤 ②金 ③黒 ④茶 ⑤緑 ⑥合議
⑦集権 ⑧責任 ⑨世襲 ⑩分権

(8)「平成の大合併」の結果、全国の市町村数は2014年4月5日時点で1718（特別区を除く）となり、明治22年の「市制町村制」施行時の【31】分の1近くまで減少したことになる。「市」の数は790となり、「市制」施行当初の【32】倍を超えた。2015年の推計では日本の市部人口は総人口の91.4%だが、実質的な市街地である【33】（人口集中地区）について集計するならば、総人口の2/3が国土の【34】分の1ほどの面積に集中していることになろう。

- ①2 ②3 ③5 ④10 ⑤15 ⑥20 ⑦30
⑧DCD ⑨DID ⑩DPD

(9)マックス・ウェーバーの遺著『経済と社会』第2部第9章「支配の社会学」には「【35】的支配——都市の類型学——」と題された長大な一節があるが、そこでは【36】人としての古典古代都市の市民と【37】人としての西欧中世都市の市民との対比も強調されている。

- ①エートス ②カリスマ ③経済 ④合法 ⑤宗教
⑥政治 ⑦伝統 ⑧非正当 ⑨文化 ⑩ライトウルギー

(10)16世紀半ばには【38】が西洋最大の都市であったが、18世紀後半には【39】の人口が100万を超えた。だが、20世紀前半には【40】がこれを追い抜き、やがて世界史上初の1000万都市となった。

- ①ウィーン ②ヴェネツィア ③シカゴ ④東京
⑤ニューヨーク ⑥パリ ⑦フィレンツェ ⑧ベルリン
⑨ローマ ⑩ロンドン

設問Ⅱ

以下の文章はすべて講義資料のプリントからの抜粋である。【41】～【45】については〈語群Ⅱa〉から著者名を、【46】～【50】については〈語群Ⅱb〉から該当する語句の原語を選び、その数字をマークしなさい。

- 【41】 《社会の四つの段階は、狩猟、牧畜、農業、商業である。》
- 【42】 《かように各部分は悪徳に満ちていたが、全部そろえばまさに天国であった。》
- 【43】 《決定的といえるのは、都会生活が、食糧確保のための自然との戦いを、人間をめぐる戦いに変えてしまったことである。》
- 【44】 《社会の道徳的密度が高まるに従って、社会は、それ自身、城壁内に全民衆を包含している大都市に類似したものとなる。》
- 【45】 《経済学者たちは奇妙なやりかたをする。彼らにとっては、二種類の制度、すなわち人為の制度と自然の制度とが存在するにすぎない。……この点では、彼らは、神学者たちに似ている。》
- 《大都市は【46】 そのものの典型である。》
 - 《家族は、素朴な精神の共同体であって、【47】 という感情的な統一を基礎としてなりたつ。》
 - 《人口は、制限されなければ、幾何級数的に増加する。【48】 は算術級数的にしか増加しない。》
 - 《古代の政治家はたえず習俗と【49】 について語っているが、現代の政治家は商業と金銭についてしか語らない。》
 - 《ヨーロッパの諸々の交易国民は、それぞれがある特定の港を目指して先頭を争っている一群の船舶と考えられる。各国の【50】 は船長に当たる。》

〈語群Ⅱa〉

- ①ジンメル ②ステュアート ③スミス ④デュルケム
⑤テンニエス ⑥ヘーゲル ⑦マルクス ⑧マルサス
⑨マンデヴィル ⑩ルソー

〈語群Ⅱb〉

- ①Formale Soziologie ②Gesellschaft ③Invisible Hand
④Industrieller Reservearmee ⑤Liebe
⑥Publick Benefits ⑦Solidarité Organique ⑧Stateman
⑨Subsistence ⑩Vertu

自由論題 (任意解答 — 「記述解答欄」の枠内に記入すること)

A. この講義で扱われながら今回の試験には出題されなかったり、あなたがこの講義に関連して自習した事柄を題材にして、簡潔で口調が良く記憶しやすいキャッチ・フレーズを創作してください。できるだけ具体的なデータや固有名詞・専門用語を盛り込み、「もじり」や「ひねり」がきいているほど高得点になるでしょう。

[解答例]

イタリアの南部に多いマスオさん
家族のかたちも経済次第? (字余り)

Delilleの研究によれば、Campaniaの「同姓居住区」と
Pugliaの「婿入り制」は相互補完的。

B. この講義の配付資料(プリント)の中で—今回は出題されなかったけれど—あなたにとって印象深かった「名言」を、できるだけ正確に引用し(著者名や書名が明記されていないものは無効)、コメントを加えてください。

[解答例]

「世界史は東から西へむかいます。」—「歴史の終わり」
をめぐるヘーゲル『歴史哲学講義』の名言。

「自由」という目標は実現しても、「それでも地球は回っ
ている」(by ガリレオ)。

A・Bとりまぜて(どちらだけでも可)3題まで解答可能。1題につき20点を上限として加点の対象とします(嘆願などを書いた場合は減点)。

なお、優秀作品は来年度以降の講義で(匿名で)紹介させていただくかもしれませんので予め御了承願います。